





一 沖田さんと南さんは、「子ども議会」の取組で、自分たちの住む町の問題点とその対策について発表することになりました。左の【資料】は、二人が子ども議会で発表するための原稿です。【資料】を読んで、発表の内容について、あとの問いに答えなさい。

【資料】

【資料】沖田さんの原稿

現在、A町の総人口は、7115人です。しかし、1990年は8188人でした。1995年は7869人、2000年には7736人、2005年には7436人というように、5年ごとに約300人ずつ減ってきているのがわかります。さらに、現在の町民の29%にあたる、2159人の方が65歳以上です。一般的には、14%に達すると「高齢社会」と呼ばれますが、A町では総人口の約3割近くに達しています。

このような状況ですから、A町はもっとバリアフリーに重点を置いた町づくりを目指すべきだと思います。バリアフリーの町づくりを進めていくことは、身体障がい者に対しても社会活動の参加や福祉の向上を促すことになり、多くの人にとって住みやすいA町をつくることになると思います。A町は、障がい者に対してバス無料の乗車券を発行しているというのですが、このような取組をもっと進めるべきです。

例えば、町民の多くが活用する港は、乗船券の販売が2階で行われていますが、高齢者や障がい者は移動が大変ではないでしょうか。

町内で他にもバリアフリーが必要なところに目を向け、よりよい環境を整えて、誰にとっても住みやすいA町であってほしいと思います。一度、高齢者や障がい者に、危険に思う場所や不便な場所を聞いてみてはどうでしょうか。

【資料】南さんの原稿

私たちのA町があるB島には、とてもきれいな海があります。しかし、赤土流出のため、このきれいな海やサンゴ礁が失われつつあります。

私は、今年台風が近づいたときに、ちょうど飛行機に乗っていましたが、この島の周りの海は、赤土の影響で一面茶色い海と化していました。そのとき、私は、これでは旅行客もがっかりするだろうし、未来の海はもっと汚くなってしまわないかと思いました。そこで、私は、赤土による被害を調べてみました。すると、「赤土自体には毒性はないが、粒子が細かいため、一度水に混ざるとなかなか沈殿せず、水を長時間にわたって濁らせてしまう」ことがわかりました。その結果、雨が止んだ後も日光がさえぎられ、サンゴは体内に共生している藻類による光合成ができなくなり、栄養不足になって死んでしまうこともあるのです。

このようなことから、今後のB島のためにも、赤土流出をもっと防ぐ方法を取るべきだと思います。私は、他の市町村の赤土対策についても調べてみました。その結果、赤土流出を防ぐための保護シートの設置などの取組をしている例がありました。

このような対策を参考に、赤土対策に積極的に取り組んでほしいと思います。

1 沖田さんと南さんの発表内容について、工夫されているところはどこですか。次のア～オの中から最も適当なものをそれぞれ一つずつ選び、記号で答えましょう。

- ア 問題点の解決に向けて、自分の調べたことを紹介している。
- イ インタビューの内容を紹介して、聞いている人の共感を高めようとしている。
- ウ 専門的な用語を用いて、発表の内容が高度なものになるようにしている。
- エ 具体的な数値を上げ、自分の主張に説得力が増すようにしている。
- オ 反論を予想し、あらかじめそれに対する答えを用意している。

沖田さん  エ  ア

南さん  ア  エ

2 あなたが「子ども議会」で発表するとしたら、あなたの住む町のどんな問題点を取り上げ、改善へ向けてどのようなことを提案しますか。発表にふさわしい話し言葉で、A問題点とB具体的な解決策を左の吹き出しに合うように書きましょう。

A

私たちの町の問題点は、

農業の後継者不足です。  
私たちの町には美しい棚田がありますが、今は高齢者だけで棚田作りをしているところが多いと聞きました。

B

解決策として、

インターネットの動画配信サービスで棚田の美しさを宣伝するとともに、棚田作りの体験ツアーを企画してみてもいいでしょうか。  
きっと棚田作りに興味を持つ若者も出てくると思います。

